

紙の乾燥速度に負けず、きれいに・確実に・一気に接着！

ミューズ式

失敗しないパネル張り

ミューズカラーテープ（水貼りテープ）を両面テープに見立てたパネル張り

パネル張りは水彩画で波打ちによる描き辛さを解消するための最も有効な手段です。しかし慣れていないと難しく、失敗のリスクを考えるとハードルが高いのも事実です。原料のパルプにより異なる紙の吸水や乾燥にともなう伸縮、こうした紙の生理現象を熟知したミューズが提案するのが「失敗しないパネル張り」です。従来とは全く異なる方法で、失敗しがちな大型パネル張りまで、仮止めの必要もなく素早くきれいに完成出来る独自の方法を紹介します。最初は小さめなサイズで練習してから大サイズに挑戦すると良いでしょう。

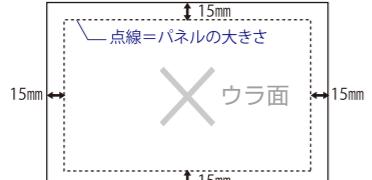
警告! 本文のパネル貼りに関する内容には株式会社ミューズの著作権が発生しております。個人的なご使用以外のコピーのほか、無断転載、本文に基づくと思われる作業を再現した動画をサイトアップすることも固く禁じます。（紙の生理現象を理解しないまま喧伝されることは、そのまま誤った情報の氾濫に繋がります。）

★準備するもの★



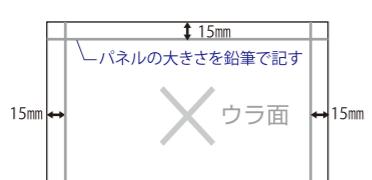
紙とミューズカラーテープの準備をする

① 紙をパネルの大きさ+折り返し分
天地左右各15mm(パネルの桟の幅
による)のサイズをカットする。



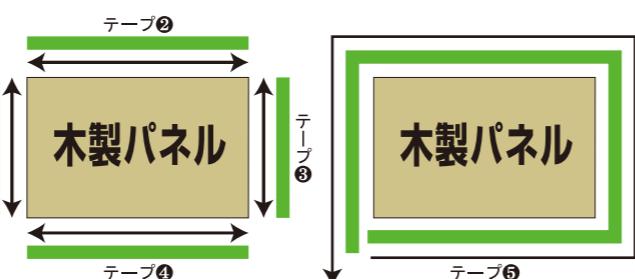
ポイント! この時表裏の区別のため、
ウラ面に鉛筆など印(×など)を付けて
おくと分かりやすい。

② 紙のウラ面の真ん中辺りにパネル
を置き、パネルの大きさ(折り
線部分)を鉛筆で記しておく。



紙は水分を吸うと伸びるため、この伸び
幅を予め計算に入れて紙をカットすると、
折り返し部分を揃えることが出来ます。

③ ミューズカラーテープを事前に切っておく。
パネルの桟と同じ長さ
テープ①～④を切りそろえておく。
仕上げの化粧貼り用にパ
ネル1周+数cm分の長さ
テープ⑤を準備する。



パネルにミューズカラーテープを貼る

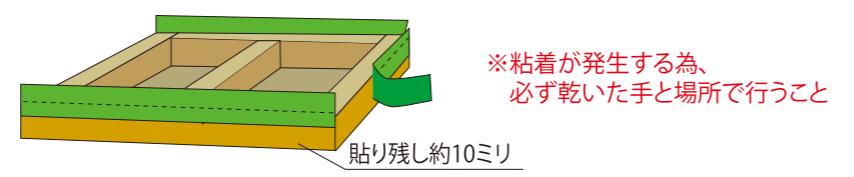
一般的なパネル張りでは最後にテープを使います。紙をパネルに置いて、端を折り返して、テープに水をつけて、貼つて、という失敗しやすく大変な工程ですが、ミューズ式では最初にテープを両面状にしてパネルに貼っておきます。これが確実かつ簡単に作業できる最大のポイントです。

④ パネルウラ面を上にして桟にスponジで水をつける。

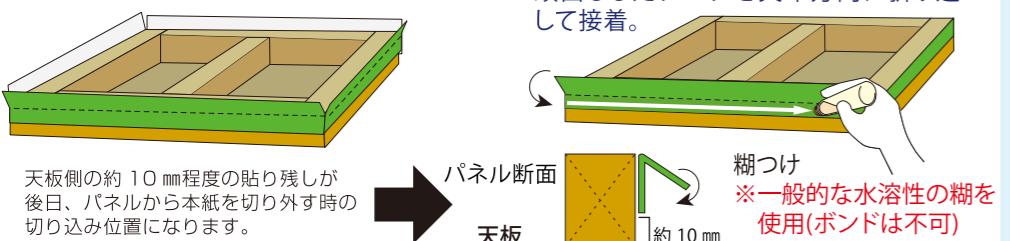
*ミューズカラーテープには水を付けない



⑤ 図のように貼り残しを設け、③で切りそろえた、テープ①～④を貼る。
ミューズカラーテープの約半分を頭出しをして、端まできちんと貼る。

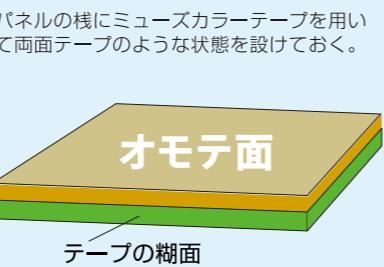


⑥ ミューズカラーテープを貼り終えた状態。⑦ 桟に貼ったテープ部分に糊を塗布し、
頭出したテapeを矢印方向に折り返して接着。



天板側の約10mm程度の貼り残しが
後日、パネルから本紙を切り外す時の
切り込み位置になります。

■パネル準備の完了



紙の水潤方法と時間の目安

条件によって水潤時間を調整する

水潤：紙の表裏全体的に水を流しかけるか、水槽などにつけ込む。放置：水かけをやめる、または水槽から引き上げて平置きして放置する。

水潤を3回繰り返す方法

- ・鉛筆画や淡彩画程度の使用
- ・紙が薄い(200g程)の場合

※3回でも吸水が十分でない場合は4回、5回、6回と増やしたりして描き方や紙にあった水潤時間を見定めましょう。

水潤作業
一例

1回目
水潤→放置
1分程度 3分間

2回目
水潤→放置
1分程度 2分間

3回目
水潤→終了
1分程度 パネルへ

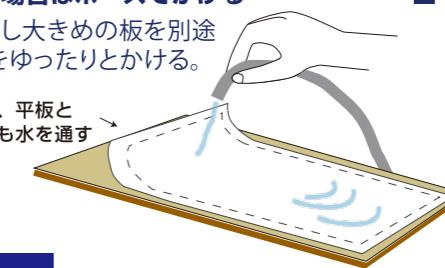
⑧ 水潤作業

水潤を3回繰り返す水潤作業を参考。紙の吸水速度は与える水量に影響されない。水潤から放置時間を見定めよう。また、数時間水に浸しつぶにするのも紙の品質上お勧めできない。

大きい紙の場合はホースでかける

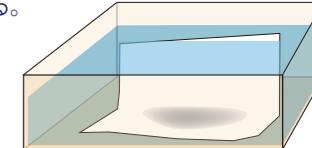
作業用に少し大きめの板を別途用意し、水をゆったりとかける。

紙を持ち上げ、平板と紙との間から水を通す



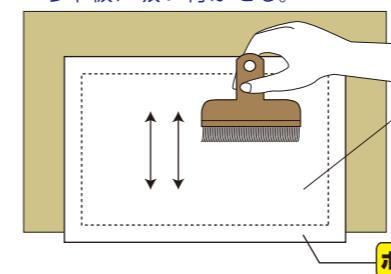
小さい紙の場合は水槽につけ込む

ウラ面を上にして作業し、紙が折れないように注意する。水潤作業中、少し持ち上げて平板と紙の間に水を流しそみオモテ面にも水を与える。

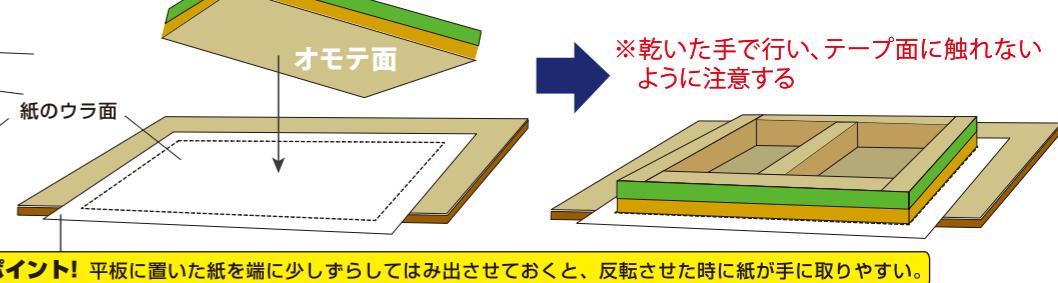


紙の張り込み・仕上げ作業

⑨ 水潤作業が終了したら、紙はウラ面
を上にして、刷毛で空気を抜きながら
平板に吸い付かせる。

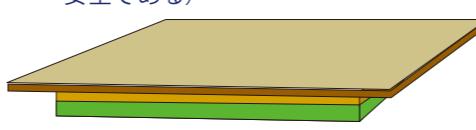


⑩ 準備しておいたパネルをおおよそ紙の天地左右均等の配置になるよう、上に置く。
(水に浸することで、紙が伸びているが、紙の真ん中辺りに置く)



※乾いた手で行い、テープ面に触れない
ように注意する

⑪ 平板が上になるように、平板とパネルを
重ねたまゝ、ゆっくり反転させる。
(大型のパネルの場合は、二人で行うと
安全である)



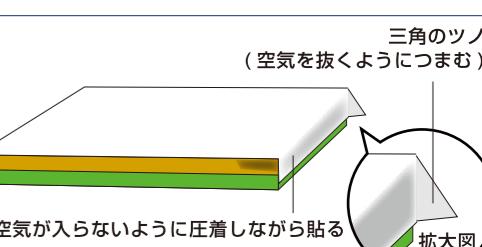
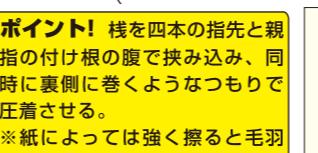
⑫ 上の平板だけを静かに取り除く。
(この時、本紙はオモテ面が上に向
いた状態になっている)



⑬ 片方を静かに持ち上げて、刷毛で空気を抜きながらパネル板面に吸い付かせる。
この時点で紙は乾燥が始まっていますので、
この空気抜き作業はテキパキやる。

折り接着の作業

左図のように、手の腹を使い、天板から桟に向けて擦りつけるように
圧着させ、角に膨らみを作らないようきちんと折りたたむ。
(テープの糊面が露出しているので直接接着されていく)
コーナーは、右図のように三角のツノができるよう特に丁寧にする。
(ツノの仕上がりが良いと乾燥後のシワは起りません)
圧着後、下の断面図の位置bにあるaの空間を爪先で埋める。
(乾燥に伴う紙の縮みで、紙が破けるのを防ぐ)



ポイント! 桟を四本の指先と親指の付け根の腹で挟み込み、同時に裏側に巻くようなつもりで
圧着させる。
※紙によっては強く擦ると毛羽立ちが起きてしまうので、注意が必要。



仕上げ作業

⑯ 乾燥は屋内にて必ず水平にし、約1日
自然乾燥せねば、完成。
(立てかけておくと紙に含まれた水分
が下に移動し、乾燥速度が天地で異
なり、紙が破れることがあるので注意)
ポイント! 水平にして自然乾燥させる際に、
パネルの下を風通しの良い状態にすると良い。

